事例No.	3096
公表年度	R6
団体の属性	指定都市
団体名	兵庫県神戸市

事例区分	DX

タグ	・AI

事例種類	医療・福祉・健康

事例内容・タイトル

市民の健康管理の手助けにAIを活用

出典

自治体におけるAIの利用に関するワーキンググループ（第2回）③

本格導入 04

市民の健康管理の手助けにAIを活用（兵庫県神戸市）

導入分野：健康・医療

AIの機能：データ解析

クラウド

非公開データ

■事業概要：

- 神戸市は独自のPHRシステムを開発し、同意が得られた本人のヘルスケア関連データ（例：介護認定情報、日常生活圏域の情報、健診データ、レセプトデータ等）を紐づけて管理する仕組みを構築した。データは研究目的であれば、学術機関への提供も可能。このPHRシステムをサービス化し、昨年度から健康アプリ「MY CONDITION KOBE」として、市民が自身の健康データを確認し、活用できるようにした。本アプリでは、市から提供される特定健診データと、市民が提供する歩数や食事等から健康に関するアドバイスを作成する。現在、約5,000人の市民が利用を開始している。

■効果：

- 効果測定中（登録数は2020年2月時点で約5,000人。そのうち、メインターゲットとなる40~60代が75%を占める。）

■取り扱う主なデータと共有・提供の範囲：

- 市が保有する健診データと、市民自身が提供する歩数や食事等を基に、アドバイスをしている。「カラダかわるNavi」はリンクアンドコミュニケーションが保有するサービスである。神戸市、大阪大学、リンクアンドコミュニケーションで共同開発したAIが、健診データと歩数や食事等から最も行動変容に繋がるアドバイスを作成する。市は、同社に対して、PHRシステム上の管理IDと健診データを提供している。なお、市の情報提供にあたっては、住民からの同意のうえ実施している。AIは同社に設置されているサーバ内に設置している。

MY CONDITION KOBE



出所）神戸市ホームページ

スケジュール

- 2019年06月：AIプログラム開発の検討開始。（サービスの個別最適化を実現するため）
- 2020年08月～03月：開発開始、β版をリリース。
- 2020年04月～：本格導入。
- 現在：AIを用いた健康アドバイスを提供。今後は健診結果の改善等を最適化するプログラムを開発予定。

事例のポイント

- 「カラダかわるNavi」の機能として、PHRシステムで管理しているデータを、市民自身が提供する歩数や食事のデータと連携させる点について、個人情報保護条例のデータ収集の制限に抵触する可能性があった。個人情報保護審議会に諮り、PHRシステムのデータを本来の目的である健康増進のために用いる（学術機関には匿名化処理を施したうえで渡して解析してもらう）ことは問題がないと整理できたため、実現した。
- なお、アプリ利用にあたっての本人確認としては、利用者がPHRの登録システムに入力した情報を、住基情報と突合させる方法をとっている。